

人生を楽しむ

教育研修部

小林 正裕

MASASHIRO KOBAYASHI

高校生から始めた弓道は、現在も週に2度ほど横浜にある弓道場で続けている。弓道は剣道や柔道とは違い、相手がいるわけではないので、結果が良くても悪くても全て自分のせい。技術力と精神力が試されているようだ。とは言え、力を入れすぎて稽古をしてもあまりいいことはない。穏やかな気持ちで少しずつ技を磨いていければいい。なんだかんだで、全国各地に遠征に行くのも楽しいし、大会で成果が出なくてもその後の反省会という名の飲み会も楽しい。何をするもの楽しいのだ。

また、多摩川から程近いところに住んでいることから、週末には河川敷に沿ってサイクリングをしている。ゆっくりと走るのが好きである。何も考えずに目に入る風景を楽しんでいるのだ。野球をしている子供たち、四季

折々に変化する草花など、何気ない日常が目に入っては消えていく、こんな時間に幸せを感じている。

仕事でも趣味でもそうだが、何事にも楽しまないとうまくいかないものだ。これからも、のんびりと人生を楽しんで過ごしていきたい。



編集後記

本号巻頭の「事業報告」では、JWセンター事業の柱となる、電子マニフェスト事業、教育研修事業の実績及び計画を掲載しています。電子マニフェストの昨年度1年間の登録件数は約4750万件で増加分では前年度から400万件を超えて過去最多となっています。

「調査報告」では、業種別事例集の調査結果から、電機・電子産業の排出事業者における産業廃棄物適正処理等の取組みのポイントについて取りまとめ掲載しています。

「コラム」では、ネイチャーポジティブ実現に向け国際枠組、国家戦略の下で企業の行動変容と情報開示が求められること等についてご執筆いただいております。

「連載」では、地域の廃棄物問題への住民・行政の取組から3Rが広まり、発生抑制を重視する仕組みへ発展し、拡大生産者責任や法整備を通じ循環型社会へ移行した過程をご解説いただ

ております。

「欧州の最新動向」では、サステナビリティ関連の規制強化に企業が対応に動いていたところ、政治の構造変化による大幅な簡素化など、バックラッシュの状況についてご報告いただいております。最後に温度感と制度は別ものであり、この情勢を冷静に読み解くことの重要性を記されています。

「産廃鼎談」の第18回は長岡文明様をお迎えしています。「廃棄物行政の現場から見た制度の歩み」と題し、北村先生、佐藤先生と様々な切り口で廃棄物行政の今後等についてお話しいただきました。

最後に、ご多忙中にご執筆いただいた皆様、記事作成にあたり編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでいただいた方々に心から感謝申し上げます。(広報室)

■本誌に関する連絡先：総務部広報室 (e-mail: jigyo@jwnet.or.jp)

<アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下のURL)に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JW センター情報(季刊) VOL.26 NO.2

発行日：2026年7月15日発行 発行人：関庄一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号
上野フロンティアタワー13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術